

## 小山市立小山城東小学校

| 児童数 | 学級数 | 実践内容(調査票に記載する内容に○を記入)   |
|-----|-----|---|
| 504 | 18  | (○) 児童の体力向上に向けてWEBサイト「とちぎっ子体力雷ジグひろば」を活用した取組<br>(○) 新体力テストの調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善<br>(○) 体力づくりに関する家庭との連携<br>(○) 教職員の資質向上のための取組 |

### 1 実践内容のねらい

- (1) 組織全体で取り組む、新体力テストの結果分析と課題解決
- (2) 「楽しい」体育の授業の展開に向けた授業改善
- (3) 児童の健やかな成長を支える教育環境の充実

### 2 内容

- (1) 投運動の充実と継続的かつ計画的な取組

近年、児童の「投げる力」の低下が顕著に見られることから、本校ではその改善を図るべく、以下のような取組を進めている。

#### ア 「城投(城東)運動」の実施

ここ数年、授業の準備体操や補助運動の前後に、「城投(城東)運動」を積極的に取り入れている。「投げる時のフォームの確認」「肩・肘・手首の連動を意識した動き」「体全体の動きや重心移動」などを掛け声と同時に行い、投げる動作の習慣化を図っている。

#### イ ドッジボールラリーの実施(「とちぎっ子体力雷ジグひろば」の活用)

投げる運動に「競争や協力する楽しさ」を取り入れるために、積極的に取り組んでいる。

- (2) 系統性を意識した指導と基礎感覚づくりの充実

#### ア 単元ごとの系統性の確認(体育通信等での共通理解)

克服の機能的特性をもつ「器械運動」「水泳運動」の単元では、打合せや体育通信等で具体的手段についての共通理解を図り、全校体制で取り組んできた。(指導要領の内容に基づく確認)

#### イ ハッスル10の実施

「腕支持感覚」「逆さ感覚」「バランス感覚」など、運動の習得や習熟に重要な基礎感覚づくりをサーキット運動に取り入れ、積極的に行っている。(10秒のインターバルがあることから「ハッスル10」と名付けている)

- (3) 教職員のスキルアップの充実・家庭への啓発

本校は児童数の多い大規模校であり、児童も多種多様である。教職員も様々な経験や専門性を有しており、こうした多様性を尊重しながら、教職員が一人一人指導力を高められるよう、以下の取り組みを行っている。

#### ア 教職員への体育通信と家庭への体育だよりの発行

定期的な体育通信と体育だよりの発行により、体育的行事の在り方や体力向上と安全性を踏まえた指導の共通理解を図ったり、学校での取組を家庭へ伝える機会を設けたりしている。

イ 校内自主研修の実施

教職員が指導の在り方を深められるよう、校内で自主研修を実施している。

3 主な成果

- (1) 新体力テストの結果より、投げる力が着実に伸びてきており、投運動の継続的な実施の成果が確実に表れてきている。
- (2) 基礎感覚づくりや系統性を意識した指導を継続的に行うことで、児童は楽しみながら体力を向上させることができ、同時に先生方の授業内での手立ても増え、指導力向上につながった。
- (3) 教職員間での指導内容の確認や家庭への啓発によって本校児童の体力や運動習慣に全校体制で考えることができ、保護者や地域の興味・関心を高めるきっかけとなっている。

4 資料

**城投運動**



運動委員会を中心に「城投運動」のやり方を高学年が低学年に教えながら、投げ方や体の動かし方を確認しました。継続的に全児童の投げる動作の習慣化を図っています。「投げるフォームがきれいになった!」「ソフトボール投げの記録が伸びた!」とたくさんの先生方が児童の体力向上に手応えを感じています。

**ハッスル10や基礎感覚づくり**



運動量も確保され、様々な感覚づくりを身に付ける活動になっています。児童も、一つ一つの動きを一生懸命行っています。

**導入部分の確認**



**ドッジボールラリー**



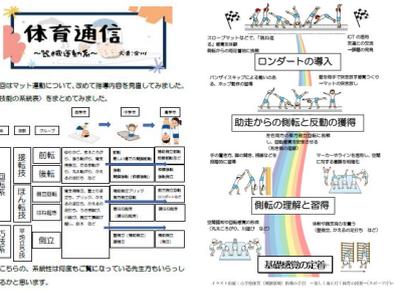
右の写真は、教職員の水泳の指導に関する校内研修の様子です。水泳指導の経験が浅い先生方は「指導に自信がついた」「見通しがもてた!」と、児童の体力向上の手立てにつながることができました。

**水質管理の共通理解**



**競争する楽しさを取り入れています。体力向上だけでなく、協力する心も育まれています。**

**体育通信 (教職員用)**



**体育だより (保護者用)**



**体育部で体育通信を定期的に発行することで、全校体制で指導ができるよう共通理解を図ることができました。**